

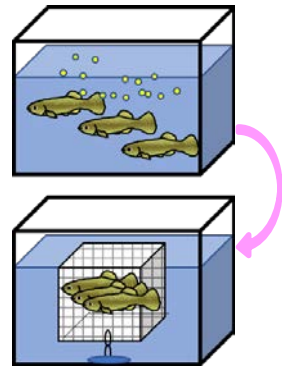
平成31年度における「海洋プラスチックを摂食した魚介類の生態的情報等の調査」の概要について(漁場環境改善推進事業)

事業実施主体：国立研究開発法人 水産研究・教育機構(瀬戸内海区水産研究所) 平成31年度委託事業 予算額:5百万円

調査内容

マイクロプラスチック(以下「MP」)の摂食により、MPが魚介類に与える化学的影響(化学物質の移行など)および物理的影響(成長阻害など)を明らかにすることを目的として、

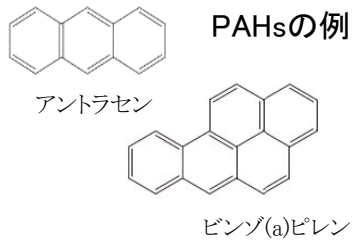
- ① 海産魚介類にMPを摂食させ、体内(消化管内)における滞留時間等を測定する。また、栄養状態や成長の悪化が生じるかを検証するため、仔魚期～稚魚期の海産魚介類を用い、ポリエチレンビーズ曝露実験の方法を検討する。
- ② 消化管内容物溶出試験法(生体外試験)に基づき、有害化学物質について海産魚介類の消化管内における溶出量を推定する。



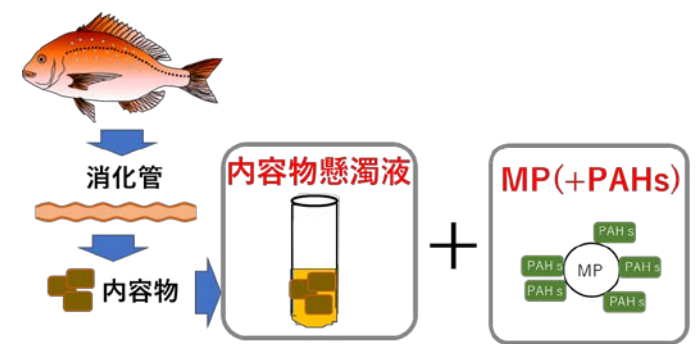
消化管内滞留時間測定のための曝露試験及び排泄試験のイメージ



ポリエチレンビーズ (直径0.3mm前後)



試験で用いるMPおよび有害化学物質 (多環芳香族炭化水素 (PAHs))



生体外溶出試験のイメージ